

研究室のある大学院生からみた大西さん

大畑宏樹（京都大学 基礎物理学研究所 原子核理論 D3）

私が大西さんと最初に顔を合わせたのは、ローレンツ祭（毎年5月に開催される、京都大学理学研究科のオープンラボ）の原子核理論研究室の紹介セッションで、私が京大理学部4回生の頃でした。当時すでに基研原子核理論グループに興味を持っており、研究室の教授を務める大西明という人がどのような人物なのかを少々探ってみようと思っていました。核理論セミナー室の入口付近で相対した大西さんは、基礎物理学研究所の教授という肩書から連想されるイメージと異なり、若々しく、二枚目俳優のようで、少々面食らったものです。そのせいか、その時に交わした会話は今でも鮮明に思い出すことができます。

大西「理論系志望ですか？」

大畑「はい」

大西「理論系の研究室をいくつか志望していますか？」

大畑「いえ、私は原子核理論研究室を第1志望にしています。第2志望以降は原ハドといった実験系の研究室を書くことになるでしょう」

大西（嬉しそうな顔で）「おー、そうですか。え、名前は？」

大畑「大畑です」

大西「どういったものに興味がありますか？」

：

その後大学院生と研究グループのボスという形で、大西さんとの交流が始まりました。明るく朗らかな大西さんとの会話はとても楽しく、特に、昼飯時に交わす何気ない会話は、私にとって大学院生活における重要な癒やしとなっていました。

大西「いやー、物理学第二教室の教員が学部での講義をやっているからか、京大理学部の原子核理論志望の学生はみんな物二の方に行っちゃうんだよね」

大畑「大西さんも学部の講義を持ってみたらどうですか？」

といった具合に、今にして思うと色々としんどいような気も言ったような気がします。

私は研究の興味の都合上、物理学第二教室の菅沼さんを実質的な指導教員としており、大西さんから一対一で研究指導を受けたわけではありません。しかし、私の博士論文の骨子となった2つの単著論文は、大西さんとポストクの村瀬さんとの共同研究に起因して思いがけず生まれたものです。この共同研究を通じて、私は大西さんの失敗を恐れずに未知のものに飛び込む姿勢を学びました。また、この意図せずに生まれた研究テーマによって、日本学術振興会特別研究員PDという次のポジションを得ることが出来ました。不幸にして私は大西さんの物理はほとんど吸収しませんでした。大西さんから教わったものを忘れず、新天地となる高エネルギー加速器研究機構でも頑張っていこうと思います。

大西さん、本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。